

# 新たな米政策がスタート

○水田農業対策部署を  
さつま協内に新たに設置

国の米政策改革の推進に伴い、これまで進められてきた米の生産調整について、平成19年産米から農業者団体などが主体的に行う制度になりました。

このため、町とJAさつまでは米政策推進に関する協定を結び、町とJAさつまの職員が一緒になって業務を推進できるよう、JAさつま本所に担当部署を設置しました。



協定書に調印する井上町長とJAさつま永福組合長  
(3月29日 JAさつま本所)



新ごぼう収穫作業の様子

## ○水田の有効活用を

### ◆転作作物で産地化を

本町は、水田地帯における米どころとして良質米生産に努めています。米の生産調整においては、水稻の作付率が約7割、転作率が約3割を占め、転作のうち何も作付けをしない自己保全管理が280haと転作面積全体の4割を占めています。その他、野菜などの園芸作物は48haとなっています。

このため、町では水田の有効活用による農産物の産地化を目指して産地づくり交付金(転作助成金)の重点化による推進を図っています。

### ◆転作重点品目

園芸作物の中でも特に市場からの需要が大きいカボチャ、サトイモ、ゴボウの3品目は重点的に推進しています。また、助成金は、販売用で一定面積以上について反当6万円以内です。

### 【問い合わせ先】

- 本庁農政課農政係 内線2422
- 鶴田総合支所経済課農政係 内線4121
- 薩摩総合支所経済課農政係 内線6131

## 安全な農作業に努めよう

農業の機械化が進む中で、農業機械による農作業事故が後をたたない状況です。特に農繁期になると農業機械を使った農作業に従事することが多くなります。農作業を行う場合は現場などの安全を十分に確認・点検し、安全な農作業に努めましょう。

- ①ゆとりをもった無理のない農作業を。
- ②農業機械や作業場所の点検・整備を十分に。
- ③ほ場への進入路や段差には十分注意を。
- ④出かける前に家族などに一声かけ、作業場所や帰宅予定時間を明らかに。
- ⑤緊急の連絡(携帯電話など)手段の確保を。



## 広報紙、町ホームページに 広告を載せてみませんか

- 広告掲載料
- ・広報さつま 1枠(縦6.0cm×横8.5cm) 1万円
  - ・町ホームページ(行政サイト) 1月 8,000円
  - ・てんがらなび(住民交流サイト) 1月 5,000円
- 詳しくは、広報さつま1月号又は町ホームページをご覧ください。 <http://www.satsuma-net.jp/>



3月に泊野川で30cmのヤマメを釣り上げた増田喜行さん。エサはミミズ。泊野川はヤマメの数は多いが、これほどのサイズは初めてと記念撮影。